

親の児童虐待中断に関する予測要因研究

虐待類型別の分析

○ キジャン総合社会福祉館・金 美楨

廉 東文（韓国国際大学）

1. 研究目的

児童は権利を持つ個体として親だけでなく大人から保護されなければならないが、児童虐待は年を追って増加しており、その発生率もまた深刻な水準である。児童虐待がもたらす諸問題は持続的に表出し児童に及ぼす影響が致命的、また不適切であることを考えると、それに対するより根源的代案を用意しなければならない。児童虐待に関する先行研究では、児童虐待の発生と原因、児童に及ぼす影響、児童保護のための治療および制度改善などが持続的に遂行されてきた。しかし児童虐待中断要因に関する研究は最近一部遂行されたが、虐待類型別の特性を考慮していない。この研究は虐待行為者である親から虐待を受けた経験のある児童を対象に情緒的虐待と身体的虐待に対する予測要因をクラスターにすることによって虐待中断と維持に影響を及ぼす要因を類型化およびクラスター化し、虐待被害児童を支援できる実践的方案を模索した。

2. 研究の視点および方法

韓国青少年パネル調査（KYPS）の小学校4年生に対する、1～5次年度のデータを利用した。分析対象は1次年度パネル調査で虐待を受けている児童を対象に2～5次年度に虐待が中断して再発生したケースを除いた児童である。虐待中断および維持が確認された情緒的虐待被害児童（以下、情緒虐待）322名と身体的虐待被害児童（以下身体虐待）466名を分析した。

本研究における予測変数は児童要因（性別、問題行動、成績）、家族要因（父親の学歴、母親の学歴、世帯所得、親子関係、母親の職業の有無、家庭内暴力の程度）、地域社会の要因（近隣によるソーシャルサポート、居住地域）によって構成され、目標変数は情緒虐待中断および維持と身体的虐待中断および維持の二分型変数に設定した。

研究モデル分析の前、SPSS18.0を利用し記述統計分析を実施し、虐待中断および維持要因を予測するための意思決定木分析(Decision Tree Analysis)を適用した。そして目標変数が離散型であることからCART(Classification and Regression Trees)アルゴリズムを使用し、父母ノード(parent node)と子息ノード(child node)の最小事例数はそれぞれ10と5に設定し樹木深度は4水準に設定した。

3. 倫理的配慮

二次資料利用のため、特になし。

4. 研究結果

本研究は身体虐待と情緒虐待が発生して中断した事例を中心に中断に影響を及ぼす予測要因を探索した。身体虐待の場合、30.0%の児童が虐待状態が維持されていた。根ノード下に身体虐待中断および維持を説明する予測変因が提示されており、上位であるほど身体虐待中断および維持に大きな影響を及ぼす変数となる。身体虐待中断維持および維持の予測にあたって活用可能な変因は世帯の月平均所得、父親の学力、家庭暴力度、母親の学力、主要科目の成績、親子の親密感、問題行動などが示された。情緒虐待の場合は35.4%の児童に情緒虐待が維持され、情緒虐待中断および維持を予測できる変因は家庭暴力、主要科目の成績、父親の学力、世帯の月平均所得、問題行動の程度、地域社会におけるソーシャルサポートであった。

つまり身体虐待と情緒虐待の間で、児童虐待中断と維持を説明する予測変因は異なるものであった。身体虐待の場合は虐待中断および維持に最も大きな影響を与える変数は月平均世帯所得となっており、情緒虐待の場合は家庭暴力であった。

5. 考察

本研究における結果は次のとおりである。第一に、児童虐待のタイプによって虐待中断とその維持要因には差があった。現場で初期介入から事例終結と事後管理に至るまで全般的にこれを考慮したアプローチがなされなければならない。第二に、情緒虐待の場合、特に家庭暴力に対する介入だけでなく地域社会におけるソーシャルサポート構築のためのネットワークづくりや支持を強化しなければならない。従って家庭暴力や児童虐待に対する地域住民の認識強化のためのキャンペーンや教育などが必要である。第三に、身体虐待においては親子関係を強化する変因が導き出されており、家族の介入が必要である。家族関係および紐帯関係のためのプログラム、親の養育ストレスを減少させることのできるプログラム提供が必要である。第四に、情緒虐待と身体虐待において世帯所得程度、父親の学力、子供の成績、子供の問題行動などの変因に注目した査定が必要であり、これを強化するための実践的および制度的努力が伴わなければならない。しかし本研究はパネルデータを活用して変因を包括的に含めてないため、児童虐待の高危険群を扱っていない。このような限界にもかかわらず、本研究の意義は実証的データを活用して児童虐待中断のために虐待類型別の予測要因を探索したという点であろう。